

れいめい 黎明

令和7年5月10日
第37号

鹿児島県立伊集院高校
関東地区同窓会会報

発行人
久保正和

ご挨拶

関東地区同窓会会長

東福清徳

(高19期・昭和42年卒)



令和7年、会員の皆様には
ご健勝にてご活躍のことお
喜び申し上げます。

さて、昨年度(令和6年)
の「同窓の集い」は、都心の
四ツ谷駅前にある「主婦会館
プラザエフ」に場所を移し2
年目の開催となりましたが、
50余名の会友の参加、母校か

ら新任の女性校長、内閣優子
先生を迎えて盛会でした。

このような中、本年度も多
くの会員の皆様から賛助金を
拠出して頂き有難うございま
した。この浄財は関東地区同
窓会の活動資金として有効に
活用させていただきます。改
めて皆様方のお心遣いに感謝
厚く御礼申し上げますととも
に、ご芳名を本会報にてご紹
介(4面)させていただきます。

私共11月の記念式典・記念
祝賀会に山下名誉会長と関東
地区を代表して出席して参り
ました。式典では、孫世代に
あたる後輩(在校生)の元氣
溢れる、一糸乱れぬ機敏な行動
に接し感激、また式典の間在
校時のあの日あの頃のことが
走馬灯のように蘇り、懐かし
さのあまり涙した次第です。

本号は、母校100周年記
念号として2面に「母校創立
100年の歩み」と題して
特集したのでご覧願
います。

8月の同窓会総会を皮切り
に、10月にかけて記念体育祭、

記念文化祭、記念講演会等の
記念行事、11月2日(土)には、
記念式典・記念祝賀会が開催
されました。

話変わりますが、昨年は母
校が創立100周年を迎え、

同窓生の皆さんへ

同窓生の皆様には、清祥にてお過ご
しのことと思います。本年6月21日
(土)に四ツ谷の「主婦会館プラザエ
フ」で同窓の集いを開催いたします。
ご友人・ご家族お誘い合わせのうえ、
ご出席下さいませ。ご案内申し上げ
ます。

お手数ですが準備の都合上、出欠の
ご返信を(住所、氏名、卒業年度、期
を明記の上)5月30日(金)までにお
願いたします。

預金科目 当座
口座番号 05010001
受取人名 関東伊集院高校同窓会
(カントウイシユウインコウコウド
ウシユカイ)
お振込み頂く際は、お名前(前か後
に)の数字を記入頂きますと幸いです。
(例)高校39期の場合、「39クボマ
サカス」
その他今後の同窓会の発展・繁栄の
ため、会員の皆様のご意見・提言等お
寄せください。

同窓会運営への 協力をお願い

同窓会の運営は、活動面では役員・
幹事のボランティア活動により、資金
面では皆様方の賛助金(寄付金)によ
り支えられています。誠に恐縮です
が会報「黎明」の発行、「同窓の集い」
案内状の発送等、同窓会の活動・運営
のために、ご寄付いただければ幸甚と存
じます。

◎一口 1,000円以上
◎郵便局窓口で同封の振込用紙をご使
用頂くか、ATM等で次の口座にお
振込みをお願いします。
金融機関名 ゆうちょ銀行
支店名 〇一九(セロイチキユウ)

一、日時 6月21日(土) 11時30分
二、場所 受付開始11時
主婦会館プラザエフ
三、交通 JR中央・総武線 四ツ谷駅 麹町口から徒歩1分
丸の内線 四ツ谷駅 1番出口から徒歩3分
南北線 四ツ谷駅 3番出口から徒歩3分
四、会費 七,000円(男女とも)
高65期 平成25年卒 以降 三,000円
同僚者(二名で一〇,〇〇〇円)、お子様は無料。
学生は無料です。
(当日会場にて、徴収いたします。)

★本年度は、講演を実施いたします。

★郷土の物産販売を行います。

★昨年より会費を男女統一にさせていただきます。

ごあいさつ

伊集院高等学校
同窓会会長 宮路

高光(高21期)



鹿児島では、例年になく三
月になっても寒い日が続いて
います。開花宣言のあった桜
も、名ばかりの春に震えてい
るようです。伊集院高等学校
関東支部同窓会の皆様におか
れましては、ますます御健勝
のこととお喜び申し上げます。
また、日頃より同窓会の
活動に御理解と御協力を賜り
心より感謝申し上げます。

昨年十一月二日、盛大に創
立百周年記念式典を開催する
ことができました。心配され
た雨も、記念式典に先立って
行われた慰霊祭が始まる頃
はすっかり上がりました。慰
霊祭に続いて行われた記念式
典は、一〇三名の来賓の方々
をはじめ、計七二四名が参加
して厳粛に執り行われました
。記念講演会では平成二年
伊集院高校卒業で第四十二期
の、国立環境研究所気候変動
センター長である脇岡靖明さ
んに「不確実な未来へ歩む」
と題して、一時間半にわたり
講演していただきました。午
後から場所を伊集院総合体育
館に移して行われた記念祝賀
会では、約一五〇名の参加者
の皆さんがアトラクションな
どで盛り上がりながら、母校
の百周年のお祝いを大いに楽
しまれました。

伊集院高校は、大正十三
(一九二四)年四月にして開
校して以来、これまでに旧制
中学と合わせて約二万四千名
の卒業生を送り出していま
す。私たち同窓会では、学校
やPTAと協力しながら、三
年前から創立百周年記念実行
委員会を立ち上げ、記念行事
の準備を進めてまいりまし
た。そして、この創立百周年
記念事業を成功させるため
に、令和四年十二月より募金
活動を開始いたしました。先
日も関東支部の皆さまから
十萬円の寄付をいただき、誠
にありがとうございました。

創立百一年目を迎えた母校
伊集院高校と同窓会活動の一
層の発展、さらに関東支部同
窓会の皆様が益々御活躍され
ることを祈念申し上げ、挨拶
といたします。

ごあいさつ

校長 内園 優子



伊集院高等学校関東同窓会の
皆様、ますますご健勝で活躍
のこととお慶び申し上げます。
日頃より母校の教育活動に対
し、温かいご理解とご支援を賜
り、心より感謝申し上げます。

昨年、本校は創立百周年とい
う大きな節目を迎え、十一月二
日には慰霊祭、記念式典、講演
会、祝賀会が盛大に執り行わ
れ、無事に終えることができました。
これもひとえに、同窓会
の皆様、PTA、地域の皆様を
はじめ、多くの方々の温かいご
支援の賜物であり、改めて深く
感謝申し上げます。

記念式典では、音楽部と生徒
会の生徒による旧制伊集院中
学校歌の披露、そして全校生徒
による校歌斉唱が行われまし

た。体育館に響き渡る力強い歌
声は、私自身も深く感動した瞬
間であり、生徒たちも伊集院高
校の歴史と伝統を肌で感じる機
会となりました。

続く記念講演会では、平成二
年卒の脇岡靖明様(国立環境研
究所気候変動適応センター長、
東京大学大学院客員教授)をお
迎え、「不確実な未来へ歩む」
というテーマで講演いただき
ました。脇岡様は、大学受験や
現在の仕事に至るまでの経験を
通じ、環境の変化に適応しなが
らも自らの意思で決断を下すこ
との重要性、そしてチャンスが
訪れた際に積極的に挑戦するこ
との大切さを、後輩たちに熱く
語りかけてくださいました。

この一年、伊集院高校はまさ
に「輝き」に満ちた年でした。
生徒会が中心となり、「輝け!
軌跡を奇跡に変える伊高の時
代」をスローガンに掲げたプロ
ジェクトチームが発足し、百周
年記念タオルや缶バッジを制作

した。令和六年度も伊高生たちは文
武両道に励んでくれました。今
年卒業した三年生の進路状況に
ついてですが、卒業生二八四名

のうちの、四十五名が国立公立大学
に合格し、私立大学、短期大学、
専門学校、就職(公務員等)と、
それぞれが希望する進路実現を
果たしました。部活動において
は、全校生徒の約八十%が加入
し、自己の成長と上位大会出場
を目指し、日々練習に励んでい
ます。九州大会に水泳、陸上、
写真部が、全国大会に弓道、書
道、演劇部が出場し、それぞれ
優秀な成績を収めています。

一〇一年目の四月には、新た
に一九四名の新入生を迎えま
した。生徒募集の課題はありま
すが、本校の教育活動を充実さ
せ、魅力を発信し、中学生や保
護者の皆様に選ばれる学校とし
て、日置市の中学校となる進学校
のさらなる伝統を築いていきま
いと考えています。そのために
も職員一丸となり、皆様の期待
にこえらるよう精進してまい
ります。今後とも母校の発展の
ためにご支援を賜りますようお
願い申し上げますとともに、同
窓会活動の充実と会員相互の連
携、親睦の深化、そして同窓会
のさらなる発展を心より祈念申
し上げ、結びのご挨拶とさせて
いただきます。

母校創立100年の歩み

関東地区同窓会会長 東福 清徳（高19期）

母校が昨年10月28日、創立100年を迎えた。そのため、昨年7月以降、記念行事や記念事業、記念式典等々多くのイベントが行われた。別添資料参照）

母校は、大正12年（旧制）伊集院中学校（※）として創設され、翌年の大正13年4月第1回入学式が挙行（定員100名）されたことによりその歴史が始まる。その後、昭和23年4月の学制改革により鹿児島県立伊集院高等学校として発足と同時に、旧制中学は僅か20数年でその歴史を閉じることになる。旧制中学校は5年生で、1期生（旧中1期）が卒業したのは、昭和4年（1929年）3月、最後の卒業生は昭和24年（旧中22期）である。新制高等学校は、翌年の昭和24年3月第1回卒業式が行われ、現在我々が便宜的に使用している「高校何期卒」という歴史がはじまることになるが、旧制から新制への移行時には、旧制中学に入學し新制高校に編入し高卒として卒業するなど、会員によっては旧中22期卒・高校1期卒といった具合に両方を名乗る人がいるなど、この時期名簿管理上もややこしくなっている。

我々はこの100年の歴史の中で僅か3年から5年（旧

「緑の森」が歌われなくなるのもそう遠くないであろう。また、高校44期生の卒業を記念して、平成4年応援歌が制定されている。

2. 男女共学

女子生徒が入學し男女共学となったのは、昭和24年4月。この時女子生徒36名が入学。従って、女子生徒の1期生は、昭和27年3月卒業、即ち、高校4期卒からとなる。

3. 定時制高校の新設

昭和23年4月、伊集院町立定時制高等学校として新設された。2年後県立に移管されたが、昭和34年3月廃止となっているので、12年後には閉校になったことになる。この間の卒業生は約460名。

4. プール竣工

母校に50mプールが新設されたのは昭和29年。当時50mプールは県下でも珍しく、鹿大水産学部・ラサール高校の3校のみと記憶している。その後、平成22年（56年後）、25mプールに改修され現在に至っている。

5. 鉄筋校舎の竣工

現在母校の本校舎は、本館が3階建て、その他4階建てで構成されているが、これらは、昭和40年代から50年代初頭にかけて建設されたものである。

6. 校内食堂の開設

昭和49年2月、創立50周年記念事業の一環として開設されたが、34年後の平成20年7月閉鎖となっている。（定かな理由不明）

7. 2学期制への移行

平成15年4月より移行。その後平成26年再び3学期制に戻し、2年前の令和5年4月より再び戻したとのこと。

学校側の試行錯誤の跡が伺える。2学期制とは、1年を前期（4月～9月）と後期（10月～3月）に分けて行うもので、始業式・終業式の回数が減り、授業時間の確保ができることや、学校行事の効率化や通知表の回数を減らすことで時間的・精神的に余裕ができるなどのメリットがあるようである。

8. 全館完全冷暖房設備の設置

今では当たり前になったが、約20年前の平成15年7月設置されている。従って、母校100年の歴史の中で80年間は冷暖房なしだったということになる。

9. 学区再編

平成23年4月、日置学区から鹿児島学区に変更された。これにより近隣中学（特に伊集院中学）からの優秀な生徒の鹿児島市内への流出、逆に同市内からの生徒の流入と生徒の出身地構成が大きく変わったためである。現在校長はじつめ先生方が、地元の優秀な生徒を地元に残めるべく日々奮闘・努力されていると聞いている。

10. 入学定員の年度別推移

生徒数の増減を入学定員の推移でみると表1の通りとなっている。

置かれている。現在は2教室に一人1台の利用環境が整備されているとのこと。

以下は、関東地区同窓会報「黎明」、伊集院高校新聞からのものである。

12. 部活動

部活動は、文武両道、昔も今も盛んであることが伺われる。

13. タイムカプセルの埋設・開封

100年の歴史の中で唯一珍しい体験をした卒業生がいる。昭和48年3月、校門の改築工事竣工の際、校門の脇にタイムカプセルを埋め、それを西暦2000年1月2日午前10時にあけるというものである。これは当時の青柳哲二校長の発案で「西暦2000年に夢を」ということで、当時の在校生（高25期から27期）、教職員八百数十名がそれぞれの思いを寄せ書きにしてタイムカプセルの中に封印し27年後の再会を誓った約束で、2000年の当日は、全国から約三百五十名が集まりタイムカプセルを開封、往時を懐かしんだとのこと。

14. 修学旅行

修学旅行が本格的に行われるようになったのは、女性が入学するようになった高校4期生（昭和27年卒）からで、しかも女性ののみ。ただこの年は台風の影響で、実質始まったのは高校5期生（昭和28年卒）からで1年目は九州旅行、その後は関西・関東方面への旅行。

15. 卒業生数

最後に、母校の益々の発展・繁栄を祈念します。

が、その時々指導教官（顧問の先生）に依るところが大きいように思う。改めて先生方のご指導に感謝申し上げます。

令和6年度の本部総会では、8月17日に城山ホテル鹿児島で約140名の参加を得て開催され、当地区からは山下名譽会長が出席されました。当年度は創立100周年記念行事や記念事業について話題が終始し、特に教育振興基金事業（募金目標額1億円）への強い協力要請がありました。本年度の総会は、8月16日（土）に開催される予定で、当番期は高37期（昭和60年卒）となります。当地区からも多くの仲間が参加されることを期待しています。（同窓会会長 東福記）

本部総会参加報告

成9年卒）で海外旅行として復活するまでの19年間はなかった。復活してからは男女全員が対象となり、現在まで続いている。海外旅行は途中2年間の国内旅行を挟んで高38期生（平成18年卒）まで10年間続いた。行き先は最初の2年が中国、次の4年がシンガポール、2年間がロンドン。高校50期（平成19年卒）以降は国内旅行（関西・関東方面）となっている。（以上、「修学旅行特集」より（会報21号））

15. 卒業生数

最後に創立100年を迎えた現在までの卒業生数は、表3の通り。

16. 出身地

昭和61年3月、鹿児島県立短期大学（国文）卒、昭和61年4月、現三井住友海上火災㈱入社、昭和62年7月、退社、平成20年～4年間、人材派遣会社、平成24年、美人養成塾を起業

●演題

「可能性を信じて」47歳主婦からの起業
「女性の意識向上のきっかけ作り」
誰でもそれぞれに生まれてきた使命がある
多幸感とは？
などをとお話しさせていただきます。

令和7年5月10日

れいめい

第37号 (2)

記念行事

7月3日	記念体育祭
9月13・14日	記念文化祭
10月10日	記念徳重塾
10月23日	記念芸術鑑賞会
11月2日	記念式典
11月8日	記念妙円寺徒歩退会

記念事業

- 教育振興基金充実
- 伊集院高校オリジナルマスコットキャラクター制作
- 100周年記念グッズ作成
- 出版物刊行（記念誌・記念新聞）

表 1

生徒数の年度別推移

年 度		入学定員	クラス数	備 考
和 暦	西 暦			
大正13年	1924	100	2	旧制中開校時
大正16年	1927	150	3	旧制中3年目
昭和25年	1950	250	5	新制高校
昭和38年	1963	350	7	団塊の世代
昭和51年	1976	405	9	昭和51～53年
昭和54年	1979	360	8	
昭和57年	1982	315	7	
平成2年	1990	270	6	
平成3年	1991	315	7	
平成5年	1993	360	8	
平成14年	2002	280	7	1ｸﾗｽ40名
平成15年	2003	320	8	
平成16年	2004	280	7	
平成23年	2011	240	6	
令和7年	2025	240	6	↓

表 2

生徒数（令和6年10月1日現在）

1 学年	2 学年	3 学年	計
208	166	184	558

表 3

卒業生数（令和6年3月31日現在）

卒業生	旧制伊集院中学校	伊集院高校	計
総数	1,853	21,819	23,672

母校沿革概要

鹿児島県立伊集院中学校

大正12年4月10日	鹿児島県立伊集院中学校として設立認可
大正12年10月28日	起工式挙行 本校創立記念日とする
大正13年4月8日	第1回入学式
昭和4年1月8日	校旗制定
昭和4年2月26日	校歌制定
昭和9年10月20日	創立10周年記念図書館落成
昭和14年10月28日	創立15周年記念式典

鹿児島県立伊集院高等学校

昭和23年4月1日	学制改革により鹿児島県立伊集院高等学校並びに併設中学校として発足 伊集院町立定時制高等学校併置
昭和24年3月3日	新制高等学校第1回卒業式並びに併設中学校第22回（最終）卒業式
昭和24年4月1日	男女共学に伴い第1学年に女子生徒36名入学
昭和24年4月20日	町立定時制高等学校旧校舎を県立伊集院高等学校敷地内に移転改築着手
昭和24年9月28日	創立25周年記念式典
昭和25年4月1日	町立定時制高等学校県立に移管
昭和26年10月1日	校旗制定
昭和27年3月1日	校歌制定
昭和29年6月13日	プール竣工
昭和29年10月28日	創立30周年記念式典
昭和34年3月31日	定時制課程廃止
昭和39年10月28日	創立40周年記念式典
昭和41年3月31日	鉄筋3階建校舎第3期竣工（本館落成）
昭和43年4月30日	図書館、視聴覚室等校舎竣工
昭和43年7月20日	体育館竣工
昭和48年3月12日	校門新設工事竣工
昭和49年2月18日	校内食堂開設（創立50周年記念事業）
昭和49年10月30日	創立50周年記念式典
昭和50年12月25日	弓道場竣工
昭和52年9月29日	鉄筋4階建校舎第1期竣工
昭和53年5月15日	鉄筋4階建校舎第2期、渡り廊下、同窓記念会館竣工

昭和54年3月15日	鉄筋4階建校舎第3期、音楽室竣工
昭和54年12月14日	柔剣道場新築
昭和56年12月25日	LL装置設置
昭和59年10月27日	創立60周年記念式典
平成2年6月1日	校訓の碑建立
平成6年10月29日	創立70周年記念式典
平成15年4月1日	2学期制開始
平成15年7月10日	全館完全冷暖房設備設置
平成16年10月29日	創立80周年記念式典
平成20年7月31日	食堂の営業廃止
平成21年2月16日	教育振興会及びPTAの資金助成による部室改築
平成22年3月29日	プール補修（50m→25m）
平成23年4月1日	学区再編に伴い日置学区から鹿児島学区へ変更
平成24年12月24日	校内バリアフリー化工事（4階棟エレベーター設置）
平成26年11月1日	創立90周年記念式典
令和6年11月2日	創立100周年記念式典

同窓生インタビュー

今回は若手の女性お二人にお話を伺いました。お二人とも、悩みを抱えながらも希望を持って、明るく一生懸命に生きている様子が伺えてとても刺激を受けました。同郷の仲間として、ぜひ応援したいと思います。

■角 柚葉 高64期。伊集院町出身



どん薩摩にて

になりました。

●それで転職されたのですか？

いえ、病院をやめてから、語学の勉強をするために、フィリピンに3か月間留学しました。英語力ゼロで行ったので最初は大変でした。4人1部屋の寮生活でしたが、シャワーはお湯が出ないし、水回りも汚く、最初の2週間くらいは帰りたいくらいでしたが、次第に（笑）ルームメートは中国や韓国の方で、会話は全て英語でも、慣れてくるとどうにかなるな、と思いました（笑）

■鹿児島料理屋「どん薩摩」の店長に

●帰国後、上京されたのですか？

帰国後、3か月は鹿児島にいましたが、とにかく鹿児島から出たかったです。英語を活かせる仕事があればと思いました。最初は東京へ行って、と（笑）東京を選んだのは、単身赴任中の父兄のいる福岡だと甘えが出るし、大阪はほぼ知り合いがいらない。ちょっとだけ知り合いがいる東京を選んだんです。

●東京で就職活動されたのですか？

鹿児島にいたとき、東京に行くまでの期間限定でアルバイトしていた飲食店のオーナーから、「東京でフリーターやさんだったら、アルバイトを紹介する」と言われたのが、今動いている会社が運営していた「チキン野郎」という渋谷にある飲食店でした。当初は、その店を含め、3店舗持ちで働いてましたが、若さで乗り切りました。その後、渋谷のお店が丸の内に移転する際、社員にならないと言われ、飲食店業いなくなって思っていたタイミングもあり、社員になりました。店名も「どん薩摩」になり、今に至っています。

●お客は鹿児島の方が多くですか？

はい、たくさん来ていただいています。そして鹿児島の方は、よく高校名を聞かれますね（笑）鹿児島県人の特性でしょうか（笑）職場は、鹿児島県人は私だけなのですが、お客様がよく話しかけてくださるものだから、非番明けの日には、職場の仲間から「昨日、鹿児島出身の方が来られ、よく言われました。鹿児島県人は皆友達のように思われているのではないですか（笑）でも、鹿児島の人たちのそのウェルカム感が「自分一人じゃないな」という思いにさせてくれるのはありがたいですね。

●これまで東京での生活は順調でしたか？

上京後、高校の友人とずっとルームシェアしていたので、ホームシックにかかることもなく、また帰宅したら高校の別の友人が来ていたりし、たまり場になったりするのは楽しかったです。一方で、コロナ禍では、24時間ずっと同じ空間にいると、どうやらたうまく生活できるだろうか、と、ルームシェアの難しさを学びました。ルームシェアは、27・8才のときに、もう一回更新したらお互い婚期を逃すというところで解消しました（笑）

■東京にいなが鹿児島の方に

●お仕事以外で取り組んでいることは？

SUP（サップ）（専用のボードに立ってパドルで漕ぎ進むウォータースポーツ）のインストラクターの資格をとりたいと思っています。ボードから海に落ちないように精神統一して集中する必要があるのですが、江戸島に居ながら無になれる瞬間は楽しいですね。今、高校の同級生が、日置市の地域おこし協力隊として頑張っているのですが、たとえば、日置市を巡るツアーにサップを取り入れたいという面白くないかと思っています。私はまだ鹿児島には帰りたいのですが（笑）、東京にいなが、地域おこし協力隊でできたらいいなと思っています。

●将来やりたいことは何ですか？

今、どうしようかと思っている自分があります。あるとき、友人に「今の人生は楽しさ何パーセントくらい？」と聞かれたとき、はっとしました。今の瞬間は楽しんでも、1年後2年後に後悔しないだろうか。自分と向き合い、もっと自発的に自分のことを知ろうと思いついた。オンラインスクールに通っています。メンバーは、日本全国から、海外の人もあり、そういう人々と会話し、一緒に何かに取り組むことで、自分の固定概念が切り開かれ、価値観が広がり、非常に良い経験ができています。私のように、これが自分の本当にやりたいことかと悩んでいる人は多いと思います。ふわっとしますが、そういう人たちが、自分がやりたいことを素直に言えるような場づくりができたらいいなと思っています。



旅仲間、未来を揺さぶる

●後輩たちに伝えたいことはありますか？

今の私が言えるのは、自分の感情とかやりたいことに、素直に動いてみてほしいということですね。県外に出てみたければ、一旦出てみて、違ふと思えばアップデートして戻ればいいし、そうすれば、また全然違ふエネルギーが湧くと思います。

■大村（旧姓西園）有理菜

（高68期。東市来町出身）



ご主人と

■プロフィール

1998年1月生まれ。3人兄妹の末っ子。小学生の頃から中1まで空手を習う。中学（東市来中）は吹奏楽部、高校はダンス部。職業能力開発総合大学校（東京都小平市）に進学のため上京。新卒で乃村工芸社入社。主に現場での施工管理に従事。過労、ストレスから3年目に帯状疱疹を発症し、大腸がんも見つかる。退社後は、ご主人と共同で設立した床仕上げの内装会社に現場仕事に従事。

■床仕上げの内装会社「叶夢偉」を設立

●会社はご主人と運営されているんですか？

はい、そうですね。主人が代表で私が従業員という形になっています。2人で現場に出ています。自宅は東京ですが、1月中旬から大阪に駐在し、大阪万博の仕事と、京都でショールームの仕事を請け負い、大阪と京都を行ったり来たりしています。（※インタビューは25年2月時点）

●会社名の「叶夢偉」の由来を教えてください。

夢を叶えて偉業を成す、という意味を込めました。付加価値を持った職人になんたいかと思っています。中二病みたいな名前だね、と言われる（笑）。アニメのゴールデンカムイとは関係ないですが、アニメも好きだったので、頭の片隅にはあったかも（笑）。

●具体的にはどういうお仕事なのですか？

床を仕上げる仕事です。戸建て、賃貸マンションから、大規模の商業施設や展示会まで何でもやります。基本的には、材料が決まっています。施工主から指示されますが、知り合いからの受注の場合、ニーズを聞いて材料から提案します。

●難しいお仕事を教えてください。

基本、どんな依頼でも対応できます。難しいところは10年の経歴をもつ主人がやってくれます。私も大学生時代に現場仕事やB2Bの家具を組み立てるアルバイトをしていて、前職の乃村工芸社では現場監督しながら職人さんたちの仕事を間近で見ていたため、この仕事にはわりかしスムーズには馴染みました。また60・80キロの重い床材は主人が持つんですが、20・30キロくらいなら私も平気で持てます（笑）。

■建築分野の仕事目指して上京

●建築を目指したきっかけは何ですか？

父親が測量の仕事をしており、母親が看護師でしたので、将来は建築か看護師かと思ってましたが、建築のほうがかっこいいな（笑）。建築関連の仕事がしたい、現場にいたい、と思ってました。高2で進路を選択する際も建築なら理系だと思い、元々文系の頭でしたが、理系にシフトチェンジして頑張りました。

●東京で建築の勉強をしたかったのですか？

東京でなくてもよかったんです。とにかく家を出て自立したいと思ってました。実家にいるとどうしても親に甘えてしまうので。一人で苦労してみたい、どこに行っても頑張りたいかと思っていました。東京の大学は高校の先生の紹介でした。東京の方が有名建築物も多く、すぐ観に行けるという利点も教えていただき、東京の大学に進むことにしました。

●職業能力開発総合大学校というのはどういうところ？

この学校は、普通の大学に比べて座学が2倍、実技が3倍のカリキュラムがあり、現場の全体的な流れを知りたい施工管理を目指す人に適しています。大学では設計や実技課題に多くの時間を費やして、4年間ほとんど遊ぶ暇がありませんでした。大学敷地内の学生寮に住んだため家賃は安かったのですが、生活費を補うためにアルバイトをする必要がありました。



●新卒で入られた乃村工芸社ではどのような仕事をされていたのですか？

主にQCDS管理（Q：品質管理、C：コスト管理、D：工程管理、S：安全管理、E：環境管理）を行っていました。工事の全体的な段取りを組んで、現場監督をしていました。私のいた会社では、現場監督が自ら手を動かすことは禁止されていたため、職人さんたちの動きや段取りを非常に注意深く観察していました。職人さんの適性を見極めて、次の現場のサインを考えていました。

●施工管理のお仕事は大変でしたか？

大変でした。肉体的、精神的にも大変ですが、知識不足を大きな課題に感じました。学校で習った知識では当然足りませんし、上司でも分かっていないことが多く、職人さんに直接聞いて教えることが多かったんです。職人さんたちが何に苦労しているか、何に不満があるかを少しも知り、改善できるように直接話を聞いていました。1年目は向いてないんじゃないか、と言われましたが、2年目は「凄いいい監督になりました」と言われるようになり、多くのことを学びました。大変な分やりがいもあって、私は現場にいることがとても好きでした。

●職人さんとの良い関係を築けたのですか？

当時はまだ若い女性の現場監督が珍しかったこともあり、所長に対する不満を言っていたり、よく話しかけてもらっていました。特に現場清掃を徹底し、安全な作業ができるよう心がけていたこともあり、現場にずっといることが多かったのも、職人さんとも聞き取りができて、その分円滑に進められたんだと思います。

■24才で大腸がんが発覚

●一番大変だったのはいつですか？

大学の4年間もきつかったのですが、社会人3年目で体を壊したときの方が大変でした。過労とストレスで、ある日足の付け根に痛みを感じ、足を引くような足がついていました。当時、大きな展示会を担当しており、睡眠時間が十分に取れない日々が続いていました。現場で歩いていると、だんだん足に違和感が出て痛みが増していくのを感じました。

現場では「股ズレじゃないか？」と言われ、「太ったのかな？」と思ったのですが、笑、ホテルに戻ってシャワーを浴びていると、足の付け根にぶつぶつができていたのを見つけた。みるみるうちにぶつぶつの範囲が広がり、痛みも広範囲に及びました。

現場に戻ると、「いったん帰っていいけど、明日また現場に出てほしい」と言われ、一時帰宅できたのですが、床に座るなり動けなくなりました。住診ドクターに来てもらおうと電話で状況を伝えると、救急車を呼ぶようにと。その日は点滴を打って帰宅し、翌日皮膚科を受診すると、帯状疱疹と診断されました。

ちなみに、救急車で運ばれた日は入籍日の前日でした。入籍日を決めていたため、次の日、皮膚科に行く前に足を引きずりながら役所に婚姻届を出しに行きました（笑）。

●暫く休んで仕事に復帰されたのですか？

1か月程休んでいる間、当時、お腹の調子もおかしく、胃と大腸の検査を受けたところ、初期の大腸がんが見つかりました。このときが一番つらかったです。親に話すときは下を向いたまま、言葉少なに伝えました。今も経過観察中ですが、早期に発見できたことは幸いでした。いつも大変な状況をそばで見ていた主人からは、会社を辞めてほしいと言われ続けていたため、会社を辞めて主人と一緒に働くことにしました。病気はつらかったですが、ストレスをうまく解消できないと体が本当に弱ってしまうことを実感しました。病気を通じて自分に向き合う良い経験ができたと思っています。

■どこにいても稼げる人になるには

●仕事以外に楽しんでいることは？

今は、主人と出張ついでに観光ですかね。共通の趣味の釣りとかもやっています。あと、仕事で重いものを持たないといけないので、筋肉をつけるために筋トレやジム通いは欠かせないです（笑）

●将来の目標を聞かせてください。

何処にいても稼げる人になる事です。会社の名前の通り、夢を持った人ってどんな人か聞いてみたいですね。これまで床貼り工として様々な場所を回りながら稼いできましたが、今はデザイン系の仕事にも力を入れています。現在、勉強中で、少しずつ依頼も受けています。将来的には、子供の世話しながらも仕事ができる環境を確立したいと考えています。

現場仕事は危険な状況で仕事をすることが多いので、もしものことがあった時のために別の事業を展開しておこうと思っています。今は二人で計画を進めている最中ですが、準備することはいくらかもあります。仕事終わりに勉強したり、知り合いに話を聞いたりして知識をインプットしています（笑）。



仕事の大村さん

第46回

関東地区「同窓の集い」
— 報告記 —



関東地区「同窓の集い」は、令和6年6月15日（土）に、四ツ谷駅前「主婦会館プラザエフ」にて45名の参加のもと行われました。

東福会長からは、出席いただいた会員並びに賛助金を拠出いただいた方々への感謝の言葉と共に、母校の創立100周年記念事業に関する今後の予定等のお話がありました。この中で、「教育振興基金の充実」を目的として進めている募金活動に対し本部より更なる協力要請があったとのことから、記念事業の趣旨をご理解の上改めて関東支部会員によるご支援・ご協力をお願いしたいとお話がありました。

続いて、来賓として出席いただいた内園校長より、日頃から母校のためにご協力いただいている同窓会活動への御礼と生徒の様子について報告いただきました。

まず進路状況のトピックスとしては、11年ぶりに卒業生の20%を超える生

徒が国公立大学に合格したこと、また80%以上の生徒が加入しているという部活動においても、全国大会に剣道、弓道、写真書道が出場し、九州大会に水泳、陸上、美術、吹奏楽、演劇が出場するなど、それぞれ優秀な成績を収めたとのことでした。

続いて、各役員より活動報告、会計報告が行われ承認されました。

なお、今回は卒業生に

よる講演はなかったことから、集合写真撮影の後懇親会に移りました。今年も従来の立食スタイルということで皆さん活発に移動して、コロナ禍のストレスを吹き飛ばすかのようにに再会を喜び合う姿が見られました。今回も焼酎メーカーから飲み物を提供いただき、郷土の焼酎が鹿児島弁での語り合いに一役買っているようでした。



また、恒例の地元物産品の販売では「つけあげ」「湯之元せんべい」「養母もち」などすぐに完売となりました。

最後に、まだまだ話し尽きぬ中、お互い健康で次回再会できることを誓い、校歌斉唱、万歳三唱を経て散会しました。

(同窓会幹事 宮下 記)

伊集院高校HPに黎明のPDFを掲載しています。HPの掲載箇所が変更した場合QRコードから直接遷移しませんが、その場合は伊集院高校HPからご確認いただけます。幸いです。

令和6年

- 4月 会報『黎明』第36号編
集作業・久保込報部長他
- 4月7日(日) 春季レクレーション(パーベキュー)
- 5月11日(土) 令和6年度「同窓の集い」案内状及び会報發送作業・久保込報部長他
- 5月19日(日) 渋谷・鹿児島おはら祭 日置地区連として同窓生多数参加
- 6月8日(土) 幹事会 同窓の集い事前打ち合わせ・車福会長他10名出席
- 6月15日(土) 第46回「同窓の集い」主婦会館「プラザエフ」5名出席

令和6年度活動報告

令和6年
4月 会報『黎明』第36号編集作業・久保広報部長他
4月7日(日) 春季レクレーション(バーベキュー)
5月11日(土) 令和6年度『同窓の集い』案内状及び会報発送作業・久保広報部長他
5月19日(日) 渋谷・鹿児島おはら祭 日置地区連として同窓生多数参加
6月8日(土) 幹事会 同窓の集い事前打ち合わせ・東福会長他10名出席
6月15日(土) 第46回『同窓の集い』主婦会館フアラエフ45名出席
9月21日(土) 幹事会『第46回同窓の集い』反省会他・東福会長他9名出席
10月3日(木) 第17回親睦ゴルフ大会(赤羽ゴルフ倶楽部)・東福会長他9名参加
令和7年
2月8日(土) 幹事会 令和7年度同窓会運営方針会議・東福会長他7名
3月上旬 賛助会員へのお礼状発送・中村会計部長

編集後記

同窓生の皆様、いつも『黎明』をご愛読いただき、誠にありがとうございます。また、寄稿してくださった皆様、取材や編集にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

同窓生インタビュは今回で4回目を迎えました。この企画は、広く同窓生の方々に、同郷の仲間が活躍している様子を知っていただきたいという思いから始めました。読んでくださる皆様が少しでも元氣になればと慥慥ながら思っていました。が実は私が一番元氣をもらっています。

インタビュを通じて、チャレンジ精神の尊さを改めて学びました。その影響もあって、仕事も趣味も従来より一層熱心に取り組むようになりました。新しい趣味としてゴルフデビューも果たしました笑。

同窓生には本当に素晴らしい仲間がたくさんいます。これからも『黎明』を通じて、同窓生の絆を紡いでいきたいと思っています。(久保)

同窓会レクレーション

親睦ゴルフ大会

第17回同窓会ゴルフ大会
を令和6年10月3日（木）
赤羽ゴルフ倶楽部に於いて
開催しました。

当日は小雨の心配もあり
ましたが、高9期から39期
までの9名が参加しプレー



バーベキュー

伊集院高校関係
同窓会の企画として、2024年4月7日（日）正午から、新宿歌舞伎町にあるビルの屋上でバーベキューを行いました。歌舞伎町タワーとゴジラが見えるビル



◎◎賛助会員のご紹介◎◎

令和6年度も同窓会の活動・運営のために、90名の皆様から多額の寄付を戴きました。誌面を拝借して厚く御礼申し上げます。

高校3期	酒匂寿郎	是枝厚生	假屋眞澄	高校28期	酒井綱一郎
高校4期	出口重遠	伊集院義男	藤沢(南)アイ子	高校3期	横山桂子
高校5期	若山照男	下荒磯(水升)美美子	吉永敏郎	高校4期	竹之内徹
高校6期	福山(松下)八重子	高田律子	米澤正流	高校5期	馬込(中野)秀美
高校7期	藤嶋松下)洋子	三原良明	小野健一郎	高校6期	西ノ園誠一郎
高校8期	溝口英文	野間口光典	有村雅文	高校7期	犬童道治
高校9期	飯屋武二	湯山健一郎	石井良二	高校8期	早崎睦朗
高校10期	松下兼偉	坂田紀行	橘木芳徳	高校9期	大迫一豊
高校11期	南光成	新山田信夫	四元義輝	高校10期	赤崎修
高校12期	前田利保	大内田澄隆	山下雅行	高校11期	上蘭司
高校13期	波間芳子	居相(東福)祐子	野添幸男	高校12期	谷口修之
高校14期	加藤(吉永)睦子	重信和美	大迫清藤	高校13期	今別府修
高校15期	深沢(徳留)美智子	森辰郎	重留伸一	高校14期	田代半朗(俊朗)
高校16期	末永岩夫	遠矢秀一郎	満富和郎	高校15期	田畑健二
高校17期	田丸菊夫	永田(川崎)かず子	新山正治	高校16期	丸野輝哉
高校18期	新山清香	東塚清徳	田中慶彦	高校17期	久保正和
高校19期	宇都隆文	手塚義博	匿名	高校18期	中村敏也
高校20期	山下佐明	金子(早田)恭子	有村義広	高校19期	甲斐久保
高校21期	廣井由美子	原口正憲	久木留昇	高校20期	奈津美
高校22期	飯牟禮巖	久保園秀隆	利波山口	高校21期	松野下和彦
高校23期	唐木沢(森岡)啓子	松下六男	東福久則	高校22期	期・氏名不明1名

高校20期	正井(古海江)登美子
高校27期	奥村(久木野)香代子
高校28期	東(福留)くに子
高校29期	瀧(新留)玲子
高校30期	宮下(未吉)勉
高校31期	阿部比良真知子
高校32期	久保香一郎
高校33期	酒井綱一郎
高校34期	横山桂子
高校35期	竹之内徹
高校36期	馬込(中野)秀美
高校37期	西ノ園誠一郎
高校38期	犬童道治
高校39期	早崎睦朗
高校40期	大迫一豊
高校41期	赤崎修
高校42期	上蘭司
高校43期	谷口修之
高校44期	今別府修
高校45期	田代集朗(俊朗)
高校46期	田畑健二
高校47期	丸野輝哉
高校48期	久保正和
高校49期	中村敏也
高校50期	甲斐久保奈津美
高校51期	松野下和彦
高校53期	期氏名不明1名